

製品安全データシート

スルファミン酸
(SULFAMIC ACID)

作成日: 2007年3月20日

改訂: 2022年6月23日

1. 化学物質及び会社情報

化学品の名称 スルファミン酸 (Sulfamic acid)
Sulfamic Acid, Amidosulfonic Acid

会社名 PT. TIMURAYA TUNGGAL

住所 Perkantoran Permata Senayan D-35,
Jl. Tentara Pelajar, Jakarta-12210, Indonesia

電話番号 電話: (62-21)5794-0809

販売代理店 サンケミカル株式会社

住所 東京都中央区日本橋小伝馬町2-4 三報ビル

電話番号 03-3661-6681

FAX 03-3661-7055

HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp

推奨用途及び使用上の注意 サッカリン原料、難燃剤原料、スケール除垢剤、酸洗浄剤、ニトリル剥離剤、メッキ浴pH調整剤
サイクラミン酸ナトリウム、アノード酸化被膜(陽極酸化被膜)、金属電気メッキ

2. 危険有害性の要約

当該物質/混合物の区分

EC No 1272/2008規制での区分

皮膚腐食性・刺激性 区分2 H315 皮膚に刺激を引き起こす
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2 H319 眼に深刻な刺激を引き起こす
水生環境有害性 長期(慢性) 区分3 H412 水生生物に長期期間にわたって有害

67/548/EEC or 1999/45/ECでの区分

Xi: R36/38 眼と皮膚に刺激
R52/53 水生生物に有害、水生環境に長期間、悪影響を与える

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

ラベル

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

・警告

H319 眼を強く刺激する
H315 皮膚を刺激する
H412 水生生物に長時間にわたり悪影響を及ぼす

注意書き

P273 環境への流出を避ける
P305 + P351 + P338 眼に入ったとき: 数分間注意して水で濯ぐ(コンタクトレンズを着用しているときは洗浄を容易にするために外す)
P302 + P352 皮膚についたとき: 石鹼と水で十分洗う

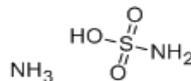
ラベル(67/548/EEC or 1999/45/EC))

シンボル Xi 刺激あり
R-phrse 36/38-52/53 眼、皮膚を刺激する
水生生物に有害で水生環境に長時間にわたり悪影響を及ぼす
S-phrse 26-28-61 眼に付着したときは、直ぐに大量の水で濯ぎ医師の診断を受ける
皮膚に付いたときは、即座に石鹼を用い大量の水で洗う
環境への流出を避ける
取扱い指示書/MSDSを活用する

3.組成・成分情報

化学物質・混合物の区別	
化学名又は一般名	スルファミン酸 (Sulfamic Acid)
慣用名・別名	アミド硫酸
化学式	H ₂ NSO ₃ H

成分及び濃度又は濃度範囲(含有 単一化合物 99% 以上)
化学特性(示性又は構造式)



危険物質	1999/45/EC
化学物質を特定できる一般的な番号	5329-14-6
官報公示整理番号 (化審法、安衛法)	(1)-402 公表化学物質
分類	-
モル質量	97.09g/mol

4.応急措置

応急処置方法	
吸入した場合	新鮮な空気のところに移動する
皮膚に付着した場合	多量の水で洗う。汚染された衣類を取り除く
眼に入った場合	多量の水で濯ぎ、眼科医の診断を受ける
飲み込んだ場合	直ちに多量の水を飲ませ、医師の診断を受ける

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 刺激、咳、呼吸困難

応急処置をする者の保護 情報なし

医師に対する特別な注意事項 情報なし

5.消火方法

消火方法	現場の状況、周りの状況に基づき適切な消火方法を行う この化合物/混合物に不適切な消火剤を用いること
消火剤	粉末消火器、水噴霧、泡消火器、炭酸ガス消火器
使ってはならない消火剤	棒状放水
火災時の措置に関する 特有の危険有害性	不燃性であるが、加熱や燃焼により分解して硫黄酸化物、窒素酸化物等の有毒及び腐食性の煙霧を発生する。 この物質の水溶液は強酸であり、塩基と激しく反応し、腐食性を示す。塩素、発煙硝酸と激しく反応し、爆発の危険をもたらす。水と徐々に反応して硫酸水素アンモニウムを生成する
消火上の注意	消防に当たっては適切な空気呼吸器、防護服を着用する
特有の消火方法	情報なし
消火を行う者の特別な保護具及び予防措置	

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	手袋、眼鏡、マスクは必ず着用すること 粉塵の発生を抑制、粉塵を吸引しないこと
環境に対する注意事項	十分な換気を行い、物質への接触を避け危険区域から遠ざかる ドレイン、河川等に放出してはならない。密閉容器にて回収 回収物、汚染された水等は公認の廃棄物処理施設で処理する

封じ込め及び浄化の方法及び機材 排水口にカバーをし、環境への漏出を防ぐ
漏出物は回収し、汚染された場所を清掃する
法令に従い、処理を行う

二次災害の防止策

7.取扱い・保管上の注意

取扱い:	
技術的対策 (局所排気、全体換気)	第8項「暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する
安全取扱注意事項	第8項「暴露防止及び保護措置」に記載の局所排気と全体換気を行う 接触、吸入、嚥下をしないこと 特に皮膚、眼との接触は避ける 取扱い後よく手を洗う
接触回避	第10項「安定性及び反応性」を参照
保管:	
衛生対策	保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、梁を不燃材とする 保管場所は屋根を不燃材とし、天井を設けない 床は適度な斜度を設け、柵を設置する
安全な保管条件	第10項「安定性及び反応性」を参照
近づけてはいけないもの	容器を密閉し、換気の良い涼しい所で保管すること 酸化剤、強塩基、亜硝酸、塩素化合物と隣接して保管させない 水をかけない
安全な保管保管包装材料	元の容器

8.暴露防止及び保護措置

許容濃度等	TLVは設定されていない
暴露限界値	—
設備対策	防爆の電気・換気・照明機器の使用 空気中の濃度を暴露限界以下に保つため排気用の換気を行うこと 作業場の近くに洗眼器と安全シャワーを設置すること
保護具	
呼吸用保護具	耐薬品用のマスク着用。大暴露時は呼吸器 保護具着用のこと
手の保護具	ゴムまたは樹脂製保護手袋着用のこと
眼の保護具	完全覆ゴーグルを着用のこと
皮膚及び身体の保護具	保護衣、長靴着用のこと 推奨 ニトリルゴム製 厚さ0.11mm以上 耐久(破過)時間 480分
衛生対策	禁飲食、禁煙。洗眼器、シャワー室完備のこと 製品で衣服が汚れたら、交換する 取扱後は手と顔を洗う
特別な注意事項	

9.物理・化学的性質

物理的状態	個体の結晶または粉末
色	無色～白色
臭い	なし
融点・凝固点	205°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データ無し
可燃性	なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃	データ無し
引火点	データ無し
自然発火点	データ無し
分解温度	209°C
pH	1.18 (1%soln. 25°C)
動粘性率	データ無し
溶解度	213g/L at 20°C
n-オクタノール/水分分配係数(Log ₁₀ K _{ow})	データ無し
蒸気圧	データ無し
密度及び/又は相対密度	2.13 g/cm ³ at 20°C
相対ガス密度	データ無し
粒子特性	データ無し
その他のデータ	
分子量	97.09
蒸気密度	3.35

10.安定性と反応性

反応性	法規に従った保管および取扱いにおいては安定と考えられる
化学的安定性	通常の保管状態では安定である。水溶液は酸性で、徐々に加水分解して硫酸水素アンモニウムを生成する
危険有害反応可能性	重合なし
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	高温、粉じん発生、着火源、相反材料
混触危険物質	ハロゲン、塩基、酸化剤、ニトリル、硝酸、金属、水、強酸化剤、硝酸、塩素、塩基と接触すると危険、有害のガスや煙霧を発生する
危険有害な分解生成物 その他	二酸化硫黄、窒素酸化物

11.有害性情報

経口	ラットのLD50値、>2000mg/kg(OECD TG401:GLP),3160mg/kg,2065mg/kg,1450mg/kg,1600mg/kg (以上、IUCLID(2000)より、区分に該当しないに相当3件、区分4に相当2件から、該当数の多いJIS分類1の区分に該当しない(国連分類基準区分5)とした
経皮	データがないため分類できない
吸入(蒸気)	呼吸器系での咳、息切れ、のどの刺激あるがデータがないため分類できない
吸入(粉塵)	呼吸器系での咳、息切れ、のどの刺激あるがデータがないため分類できない
吸入(ミスト)	呼吸器系での咳、息切れ、のどの刺激あるがデータがないため分類できない
ウサギを用いた試験(OECD TG404:GLP準拠)	で刺激性ありの結果(IUCLID)(2000))、更に別にウサギを用いた複数の試験で刺激性なし～重度の刺激性の結果(IUCLID(2000))が得られている
これらの結果に加え、EU分類では、Xi;R36/38に分類されていることから、区分2とした	
ウサギを用いた試験(OECD TG405:GLP準拠)	で刺激性ありの結果(IUCLID)(2000))、更に別にウサギを用いた複数の試験で中等度の刺激性～重度の刺激性の結果(IUCLID(2000))が得られている
これらの結果に加え、EU分類では、Xi;R36/38に分類されていることから、区分2Aとした	
陰性	
分類出来ない	
分類出来ない	
分類出来ない	

12.環境影響情報

魚類(ファットヘッドミノー)における96時間LC50=70.3mg/L(ECETOC TR91,2003)であることから区分3とした	
バクテリア Pseudomonas putida 16時間EC10=1.000mg/l (IUCLID)	
急性毒性区分3であり、急速分解性がない(BIOWIN)ことから、区分3とした	
分配係数:n-オクタノール/水	
Log Pow: 0,10	
生体蓄積性はないと予測される。(Log Pow <1)	
データ無し	
データ無し	
pH値の変動によって有害	
水、汚染水、土に埋めないこと	

13.廃棄上の注意

廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする
廃棄に於いては関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと

14. 輸送上の注意

国際規制 ADR/RID(陸上) ADR/RIDの規定に従う
国連番号 2967
品名(国連輸送名) Sulphamic Acid
国連分類 Class 8
容器等級 Packing group III

IATA(航空) IATA/ICAOの規定に従う
国連番号 2967
品名(国連輸送名) Sulphamic Acid
国連分類 Class 8
容器等級 Packing group III

IMDG(海上) IMOの規定に従う
国連番号 2967
品名(国連輸送名) Sulphamic Acid
国連分類 Class 8
容器等級 Packing group III

海洋汚染物質 非該当

MARPOL73/78附属書II及び
IBCコードによるばら積み輸送される液体物質
(該当・非該当) 非該当

輸送又は輸送手段に関する特別な安全対策
移送時にイエローカードの保持が必要
食品や飼料と一緒に輸送してはならない
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に
行う雨水厳禁

国内規制がある場合の規制情報
陸上規制情報 規制なし
海上規制情報 船舶安全法の規定に従う
国連番号 2967
品名 スルファミド酸
クラス 8 (腐食性物質)
容器等級 III
航空規制情報 航空法の規定に従う
国連番号 2967
品名 スルファミド酸
クラス 8 (腐食性物質)
容器等級 III

その他
緊急時応急措置指針番号 154

15. 適応法規

- ・ 安衛法 2022年3月 通知表示対象 非該当
2026年4月 通知表示対象 義務化 該当
- ・ 船舶安全法 危規則第3条危険物等級8腐食性物質(正8容器等級3)
- ・ 国連番号 2967
- ・ IMDGクラス 8
- ・ PRTR 法 非該当
- ・ 航空法 腐食性物質(施行規則第194条危険物告示別表第1)
- ・ 港則法 危険物・腐食性物質(法第21条2、則第12条、昭和54告示547別表二口)

16. その他の情報

安全警告 製品を嚥下した場合及びエアロゾル状で吸入した場合は肺、気道、口内に炎症を生じることがあります。重篤な状態に陥る危険性がありますので、取扱い時は、ゴーグル型メガネと有害微粒子防止フィルター付マスクを着用してください

参考 TIMURAYA MSDS 2015年1月

記載内容における情報は正確性を期しておりますが、それらについて何の責任、保証を伴うものではありません
注意事項は通常の取扱いを対象としたもので、使用の際はご使用者各自の責任で管理の上使用ください